「戦乱」から見えてくるとちぎの歴史
～「昔」を知ると、「今」がわかる～

「とちぎ」は他の都道府県から見るとどの位置にあり、どういう歴史をたどってきたでしょうか？これはわかっているようで、意外と説明が難しいかもしれません。そこで、「戦乱」（戦い・戦・合戦・乱・変など）という視点から「とちぎ」の歴史をふりかえると、ちょっと知らなかった事実や特徴が見えてきます。栃木県立図書館では、県内で活躍する歴史の専門家４名におすすめの資料を伺い、３階地域資料室にて関連展示を行います。

「とちぎ」の昔を知ると、激動の「今」が見えてきます。

〈下野新聞・栃木県立図書館共催　トークセッションのご案内〉

戦乱から見えてくるとちぎの歴史　～「昔」を知ると、「今」がわかる～

＊「いくさ（戦）」と「ちから（政治権力）」の衝突をめぐる背景と、現在につながる「とちぎ」の地政学的役割について熱い議論を展開します。

■パネリスト：　江田郁夫氏（栃木県立博物館）・山口耕一氏（下野市教育委員会）・笹﨑明氏（日本城郭史学会委員）
■司会：　下田太郎氏（随想舎）
■日時：　令和２（2020）年２月９日（日）　14:00～15:30（13:30開場）
■場所：　栃木県立図書館１階ホール　■定員：80名（先着順・入場無料・申込不要）
（下野新聞社・栃木県立図書館　共催）

【協力者紹介】（トークセッション登壇者）

～展示とトークセッションにご協力いただいた４名の専門家について それぞれの著作とともに紹介します。～

◆ 江田 郁夫（えだ・いくお）氏

1960年生まれ　栃木県立博物館学芸部長

（請：請求記号、資：資料コード）

・**『室町幕府東国支配の研究』**（高志書院　2008）
（請：T209.4/64/C　資：1105328452）

・**『下野の中世を旅する』**（随想舎　2009）
（請：T209.4/70/C　資：1105357527）

・**『下野長沼氏』**（中世武士選書　戎光祥出版　2012）
（請：T288/140/C　資：1105661027）

「下野國全図」（明治43年、栃木県立図書館蔵）

・**『戦国大名宇都宮氏と家中』**（岩田書院 2014）
（請：T288/146/C　資：1105802373）

・**『下野宇都宮氏』**（シリーズ・中世関東武士の研究　岩田書院　2014）
（請：T288/137/C　資：1105554206）

・**『足利尊氏再発見』**（峰岸純夫，江田郁夫 ／編　吉川弘文館　2011）
（請：T289/ア.10/8C　資：1105578924）

【協力者紹介】（トークセッション登壇者）

◆ 山口 耕一（やまぐち・こういち）氏

1964年生まれ　下野市教育委員会事務局文化財課長

（請：請求記号、資：資料コード）

・「**鹿沼市所在の中世の遺跡**」（『かぬま 歴史と文化』第２号　鹿沼市史編さん専門委員会／編　1997）
（請：T221/40/2C　資：1104114390）

・「**栃木県内出土の陶硯**」（『古代東国の考古学』　大金宣亮氏追悼論文集刊行会／編　慶友社 2005）
（請：T202/257/C　資：1105320863）

・「**下野国分寺**」（『国分寺の創建 思想・制度編』　須田勉，佐藤信／編　吉川弘文館 2011）
（請：185.9/35　資：1105591372）

・「**下野国河内･都賀郡の地域開発**」（『古代の開発と地域の力』　天野努，田中広明／編　高志書院 2014）（請：213/45/3　資：1105851479）

・「**下野国における官衙相当施設の検討**」（『日本古代考古学論集』　須田勉／編　同成社 2016）
（請：210.3/1350　資：1105949224）

◆ 笹﨑 明（ささざき・あきら）氏

1961年生まれ　日本城郭史学会委員

・『**壬生藩**』（シリーズ藩物語）（中野正人，笹﨑明 ／著　現代書館　2019）
（請：T243/18/C　資：1106249871）

・「**宿城としての壬生城**」（壬生町立歴史民族資料館 ／編　2012）
（請：T069/90/011.2C　資：1105601098）

・「**慶長五年伏見城攻防戦をめぐって**」（壬生町立歴史民族資料館 ／編　2017）
（請：T069/90/017.2B　資：1106326752）

・『**国別城郭･陣屋･要害･台場事典**』（西ケ谷恭弘 ／編，笹﨑明〔ほか〕 ／著　東京堂出版　2002）
（請：521.8/164　資：1104623499）

・『**城郭の見方･調べ方ハンドブック**』（西ケ谷恭弘 ／編著，笹﨑明〔ほか〕 ／著　東京堂出版 2008）
（請：521.8/292　資：1105206294）

◆ 下田 太郎（しもだ・たろう）氏

1975年生まれ　有限会社随想舎編集部

・『**占領期（1945～49年）栃木県内発行メディアに関する基礎的研究**』（私家版　2010）
（請：T070/32/B　資：1105438475）

・『**宇都宮市水道百周年下水道五十周年史**』（Ⅰ第２節，Ⅲ執筆）（宇都宮市上下水道局 ／編　2017）
（請：T519/212/C　資：1106064544）

・「**占領下の地方における性と生殖の啓蒙的言説**」
（『インテリジェンス　第１１号』　早稲田大学２０世紀メディア研究所インテリジェンス編集委員会　2011）
（請：1105530396　資：T379/359）

展示資料一覧

＊各資料の内容紹介は今回の４名の協力者の方にお寄せいただいたものです。（以下敬称略）

Ⅰ．「とちぎ」の歴史を知るには

書名	著者名等	請求記号	資料コード
栃木県の歴史	**阿部昭／〔ほか〕著**	T209/48/C	1104183189
原始古代から近現代まで、栃木県の歴史に通暁する最適の執筆者によって記された本格的通史。コンパクトながら、年表や国・市・郡の沿革表など付録も充実していて便利（江田）。			
栃木県の歴史散歩	**栃木県歴史散歩編集委員会／編**	T290/302/C	1105150575
栃木県各地域の歴史と文化財を知るうえで好適。栃木県内の諸地域が、それぞれに独自性をもちながら、ひとつの国（県）としてのまとまりを有するようになったことが実感される（江田）。			
人物でみる栃木の歴史	**栃木県歴史文化研究会／編**	T280/65/C	1105545253
古代の那須直韋提から現代の濱田庄司まで、県内外で活躍した18人の人物を通じて栃木県の歴史をたどる。県の歴史・文化を探究する栃木県歴史文化研究会創立20周年記念刊行（江田）。			
古代下野への誘い **見たい知りたい・古代の素顔**	**塙静夫／著**	T209.3/8/C	1104664063
『図説 とちぎ古代文化の源流を探る』（随想舎）、『探訪とちぎの古墳』（随想舎）とあわせて、栃木県の考古学・古代史を分かり易く解説したシリーズ。いずれの本も実際に史跡や遺跡に足を運んだ際に現地に持参して読むとより理解しやすい構成となっている（山口）。			
とちぎを掘る　栃木の考古学の到達点	**栃木県考古学会／編**	T202/277/C	1106001660
栃木県の考古学の歩みとその到達点を、旧石器時代から中世、そして足尾銅山跡などの諸側面からたどる。地道な活動を続けてきた栃木県考古学会の創立50周年を記念して刊行（山口）。			
古代の東国 3 覚醒する〈関東〉 平安時代	**吉川弘文館**	213/55/3	1106048554
奈良時代末から中世へ移行する時期の内容で、古墳時代・飛鳥・奈良時代を扱った２冊とセットで読んでいただくと東国・坂東・関東という言葉の意味合いも理解しやすい構成となっている。古代の下野国についての記載も豊富である（山口）。			
栃木県の仏像・神像・仮面	**北口英雄／著**	T718/43/C	1106287301
栃木県立美術館・博物館等で半世紀以上にわたり本県の仏像・神像等を実地に調査・研究し、多大な成果をあげてきた著者の集大成。文化財保護にかける熱意が伝わってくる（江田）。			
近世栃木の城と陣屋 改訂増補	**杉浦昭博／著**	T521/43/011C	1105563439
江戸時代、大名、旗本や幕府が居城や居所、あるいは地方支配の拠点として、下野国内に構築した城や陣屋を網羅。数多く出ている城の本でも、ほとんど取り上げられない栃木の城や陣屋の歴史や現況を、多くの写真や情景図、配置図を用いて解説している（笹﨑）。			
下野の明治維新	**大嶽浩良／著**	T209.6/75/C	1105835084
幕末維新期における下野国での激動の二〇年余を通史的・網羅的に叙述した書。著者積年の研究成果と最新の知見も盛り込んでいる（下田）。			
明治維新150年 栃木県誕生の系譜	**下野新聞社編集局／編**		
『下野新聞』で連載していた企画記事の書籍化。栃木県がどのように創られていったのかをメインテーマに、さまざまなテーマから「栃木県」誕生を歩きながら眺めるエッセイ（下田）。			
下野新聞で見る昭和・平成史 1 **（1926－1951）**	**下野新聞社／編**	T070/34/1C	1105897092
大正から昭和に改元された大正15・昭和元（1926）年からサンフランシスコ平和条約調印で日本が独立を果たした昭和26年（1951）年までの国内外の主な出来事と栃木県内の出来事を新聞紙面から振り返ったユニークな近現代史本。当時の世相や風俗もわかるのも新聞ならでは（下田）。			

Ⅱ.「いくさ」の主役－武士とは何か？－

書名	著者名等	請求記号	資料コード
古代史講義 戦乱篇	**佐藤信／編**	080/104/1391	1106232471

古墳時代の磐井の乱から乙巳の変、白村江の戦い、壬申の乱、対蝦夷戦争、将門・純友の乱、前九年・後三年合戦まで日本の歴史を左右する古代の大戦についてわかり易く書かれている。また、更に詳しく知るために章ごとに参考文献があげられている（山口）。

内戦の日本古代史 邪馬台国から武士の誕生まで	**倉本一宏／著**	080/84/2505	1106213422

倭王権成立期の内戦から磐井の乱、壬申の乱、対蝦夷戦争、天慶の乱、前九年・後三年の役まで、『古代史講義【戦乱篇】』と重複するテーマが取り上げられているが、双方の内容を比較しながら読み進めると面白い（山口）。

武士の起源を解きあかす 混血する古代、創発される中世	**桃崎有一郎／著**	080/104/1369	1106196692

意外かもしれないが、武士はいつどこで出現したのか？この問いに対してこれまで明確な答えはなかった。本書は古代から中世へと移る時代の中で、家・血統・都鄙に着目し、武士の誕生について考えた傑作（山口）。

動乱の東国史 1 平将門と東国武士団	**吉川弘文館**	210.4/577/1	1105672149

平安時代最大の内乱である承平・天慶の乱、さらに将門に勝利した藤原秀郷・平貞盛の子孫たちの繁栄と没落の様相。前九年・後三年役から保元・平治の乱に至る中世黎明期の源氏と平氏の興亡と東国武士団がどうかかわっていったのかを知るための良書（山口）。

源平合戦の虚像を剥ぐ　治承･寿永内乱史研究	**川合康／著**	210.39/2	1103953749

武士の発生、武士とは何か、戦に使われた馬の問題、戦闘様式の変化など中世草創期の戦いと幕府の権力の形成過程について触れた内容。兵粮調達など戦のありかたについても言及（山口）。

絵本平家物語	**安野光雅／著**	726.5/60	1103990006

『平家物語』の世界を画家で絵本作家の安野光雅の視点から描かれる鎮魂の書。一見するととちぎの歴史と関係ないように思われるだろうが、下野武士団として源平合戦に出陣した「もののふ」たちの姿と安野による平和を祈るよう気持ちで描かれた絵に、戦乱とは何かを深く考えさせられる（下田）。

中世東国の街道と武士団	**江田郁夫／著**	T7209.4/73/C	1105462012

奥大道というテーマを軸に中世の宇都宮、中世の天命（佐野市域）、鎌倉・南北朝期の那須氏、中世の鍋山衆（栃木市域）、長沼氏など下野国内の有力氏族について詳細な分析が行われており、栃木の中世を知るうえで重要な論考である（山口）。

中世宇都宮氏の世界 下野･豊前･伊予の時空を翔る	**市村高男／編著**	T288/145/C	1105786022

宇都宮市を本拠に400年以上にわたって活躍をみせた中世武士団・宇都宮氏の実像に関し、歴史資料のみならず、城館や石造物などのさまざまな文化遺産から多面的に迫った労作（江田）。

小山評定の群像　関ケ原を戦った武将たち	**産経新聞社宇都宮支局 ／編**	T242/50/C	1105986085

産経新聞栃木県版に1年半以上にわたって連載された「小山評定の群像」を書籍化。黒田長政・真田昌幸らの著名人や、皆川広照などの身近な人物から小山評定の実態に迫る（江田）。

Ⅲ. 「交通」からとちぎを眺める

書名	著者名等	請求記号	資料コード
とちぎ街道ストーリー	**大嶽浩良 ／監修**	T682/80/C	1105126419
江戸時代の５本の街道と現代の８本の国道・４本の県道を取り上げている。その街道が沿線地域に及ぼしてきた影響や与える恩恵などをその街道の歴史とともに、物語っている。（笹﨑）			
栃木の日光街道　荘厳なる聖地への道	**日光街道ルネッサンス21推進委員会／編**	T682/66/003C	1104722416
江戸時代の下野が、日光を中心に街道の整備が進められていたことがわかる一冊。日光社参を契機として、江戸と日光を結ぶ街道が整備されていったことが、大判の本に掲載された写真や図版とともに紹介されている。（笹﨑）			
栃木の水路	**栃木県文化協会／編**	T684/11/D	1102465828
江戸時代における下野の河川交通、その中心となった川の港「河岸」について、各水系ごとに解説している。出版から40年が経過している本ではあるが、とくに江戸時代の河川交通を学ぶ上での基本資料と言える。（笹﨑）			
ちゃんと歩ける日光街道奥州街道 日光道中二十一次，奥州道中十次	**八木牧夫 ／著**	T682/95/C	1106139155
「街道歩き」の本は多いが、本書は「ちゃんと歩ける」ことを前面に押し出している本だ。著者自らの経験により、見どころはもちろん、食事場所やトイレ、宿泊所等、街道歩きには欠かせない情報を、わかりやすく紹介している。（笹﨑）			

Ⅳ.「いま」につながる江戸時代

書名	著者名等	請求記号	資料コード
全国の伝承江戸時代人づくり風土記 ９ ふるさとの人と知恵栃木	**加藤秀俊／〔ほか〕編纂**	T209.5/58/C	1105322992
江戸時代の下野を「地域振興」「教育」「先駆者」の視点からとらえている。ここで取り上げられているテーマのいずれもが、「風土」を活かしながら生きてきた人たちの知恵の歴史が綴られている（笹﨑）。			
シリーズ藩物語 足利藩	**菊地卓／著**	T274/95/C	1105311714
宇都宮藩･高徳藩	**坂本俊夫／著**	T213/13/C	1105522484
壬生藩	**中野正人･笹﨑明／著**	T243/18/C	1106249871
廃藩置県の時、日本には２６０の藩が存在した。下野には１１の藩があったが、このシリーズでは、４藩が出版されている。藩の成立から終焉までの歴史が、多くの写真や図を用いながら物語られている（笹﨑）。			
浄瑠璃坂の仇討ち	**坂本俊夫 ／著**	T211/181/C	1106150632
江戸三大仇討ちに挙げられる「浄瑠璃坂の仇討ち」。事件の発端から結末までかかわった川俣三之助が事件の翌年に書き残した手記を基に、浄瑠璃坂の仇討ちの全貌を明らかにしている（笹﨑）。			
日光山麓史　下野国板橋を取り巻く世界	**田邉博彬／著**	T223/38/C	1105602989
下野国都賀郡板橋村。江戸時代は日光道中壬生通の板橋宿としての歴史を、日光開山以前から日光神領の解体まで、さまざまな史料により明らかにしている。とくに中世以降は、県市町村史では埋もれている文献も多く紹介されている（笹﨑）。			
常野記 -水戸藩領武茂郷と下野国黒羽藩の幕末･維新-	**大金義昭／著**	T266/31/C	1106090192
江戸時代の下野北東部には、水戸藩武茂領が存在した。中世以来、一度の転封もなく大関家に受け継がれてきた黒羽藩。下野北東部の歴史を、水戸藩天狗党の一連の行動がもたらしたものを中心に描かれている（笹﨑）。			

Ｖ．近代の戦争ととちぎ

書名	著者名等	請求記号	資料コード
下野の戊辰戦争	**大嶽浩良／著**	T209.6/14/C	1104835390
下野の幕末維新史の第一人者である著者が、約1年半におよぶ戊辰戦争のうち半年間にわたって戦場となった下野の戊辰戦争の展開過程を丹念に、かつビジュアルに紹介する（江田）。			
戦争という見世物 ―日清戦争祝捷(しゅくしょう)大会潜入記―	**木下直之 ／著**	210.65/18	1105788051
著者が不忍池のほとりでコーヒーを飲んでいたらタイムスリップし、明治27（1894）年12月に上野公園で行われた「祝捷大会」会場へ潜入するという一風変わった文化史エッセイ。人びとの騒ぎようを横目に、権力側が戦争をいかに「見世物」として可視化してきたがよくわかり、こうした装置がかたちを変えて今でも変わらず行われている（下田）。			
地域のなかの軍隊 9(地域社会編) 軍隊と地域社会を問う	**吉川弘文館**	392.1/76/9	1105895971
近代における「軍隊」と地域社会とのかかわりを８名の論者がそれぞれの観点から論じている。「軍隊」がいかに人びとの日常生活と深くかかわっていたかが一望できる（下田）。			
うつのみやの空襲　平和への願いと犠牲者への鎮魂の意をこめて，戦災記録保存事業報告書	**宇都宮市教育委員会／編**	T211/147/C	1104545577
昭和20（1945）年7月の宇都宮大空襲を軸に、日中戦争（昭和12［1937］年）からGHQ（連合国軍最高司令部）による占領期間までを豊富なビジュアルと貴重な証言などでまとめた記録。「うつのみや」についての記録だが、栃木県内における空襲の実態も知ることができる（下田）。			
那須の太平洋戦争	**北那須郷土史研究会／編**	T260/48/C	1104021447
かつて那須野が原の金丸原（大田原市）と那須野（那須塩原市）にそれぞれ陸軍飛行場と飛行学校の分教所があった。豊富な写真と当時の関係者から収集した記録が貴重。中でも、那須野飛行場で特攻隊が編成されていたことは残念ながらあまり知られていない（下田）。			
戦争遺跡の発掘･陸軍前橋飛行場	**菊池実／著**	213.3	1106295163
栃木県に限らず全国の戦争遺跡がどのように発掘・調査されているかがコンパクトにわかる。隣の群馬県前橋市にあった陸軍飛行場跡についての本だが、陸軍飛行場がどのように造成されたか、そして陸軍における飛行部隊の実態がよくわかる（下田）。			
写真で見るペリリューの戦い ―忘れてはならない日米の戦場―	**平塚柾緒**		
アジア・太平洋戦争中、激戦地のひとつだった南洋パラオ諸島ペリリュー島の歩兵第二連隊（水戸）と歩兵第一五連隊第二・三大隊（高崎）、アンガウル島の歩兵第五九連隊第一大隊（宇都宮）の戦いを写真で振り返る。 本土を「絶対防衛」するため、宇都宮の陸軍第一四師団が満州から南洋のパラオ諸島へ派遣されたことを忘れないための書（下田）。			

本リストの資料はすべて３階地域資料室の展示コーナーにあります。

本リスト以外にも地域に関する所蔵資料があります。資料検索でお調べいただくか、職員にお尋ねください。

栃木県立図書館

〒320-0027　栃木県宇都宮市塙田1-3-23
TEL　028-622-5111（代表）
　　028-622-5112（本の照会･相談）
FAX　028-624-7855
HP　http://www.lib.pref.tochigi.lg.jp/

VERY GOOD LOCAL とちぎ